

# 南予の方言と日本語地図との比較

1年2組 池田 優祐

1年2組 大塚 健司

1年2組 加藤 晃一

指導者 教諭 渡部 陽子

## 1 課題設定の理由

民俗学者の柳田国男氏の「蝸牛考」を読み、方言の伝播の仕方に興味を持った。そこで、南予地域の植物や小動物の呼び方を調査することで、宇和島の方言の特徴や日本の他の地域との関係性を明らかにしてみたいと考えた。南予で使われている方言が日本の他の地域で使われているのか、また、使われていれば、その地域と南予地域に歴史的にどのような関係があるのか、調べることができるのではないかと考えた。

## 2 仮説

愛媛県は九州地方や中国地方と近いため、その影響を受けているのではないかと考えた。また南予でも宇和島はかつて伊達藩が治めていたので、東北地方（仙台地域）でも似たような方言が使われているのではないかと推測した。

## 3 研究・調査の方法

(1) 植物や小動物の呼び名についてのアンケートを実施する。

＜アンケート調査項目（抜粋）＞

該当するところの記号に○を付けてください。

あなたの年齢 a 10~30代 b 40~60代 c 60歳以上

あなたの住んでいる地域

A 宇和島市 B 三間町 C 津島町 D 鬼北町 E 吉田町 F 愛南町 G 宇和町 H 明浜町 I その他

Q 次のものを何と言いますか？自分の言い方には○、聞いたことがあるものには△を付けてください。

1、



- 2、
- A、じゃがいも
  - B、ばれいしょ
  - C、じゃがたらいも
  - D、にどいも
  - E、いも
  - F、その他（ ）

2、



- A、さといも
- B、たろいも
- C、たいも
- D、たほど
- E、いも
- F、その他（ ）

(2) アンケートの集計結果を日本語地図（図1）と比較する。

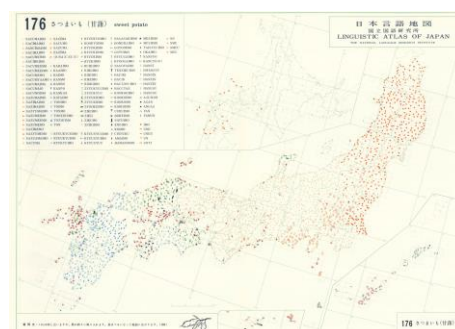
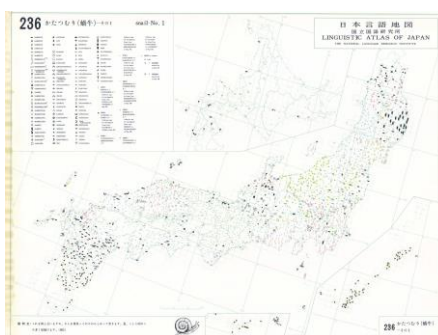


図1: 日本語地図（出典: 国立国語研究所）  
（左）かたつむり （右）さつまいも

## 4 結果と考察

### (1) 結果

今回の調査では、かたつむりの呼び方に「だいろ」という珍しいものがあった。「だいろ」は関東・中部北部・東北南部で使われていることが日本言語地図から分かった。また、「まいまい」「でんでんむし」という呼び方をしている人もいることが分かった。

さつまいもの呼び方には、「いも」「かんしょ」「琉球いも」という項目を選んだ人も少数ながら存在していた。

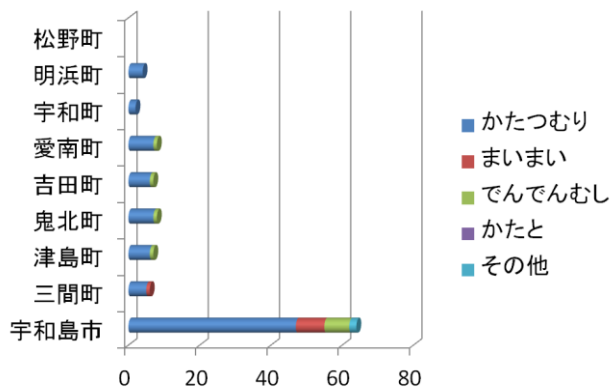


図2: アンケート調査結果(かたつむり)

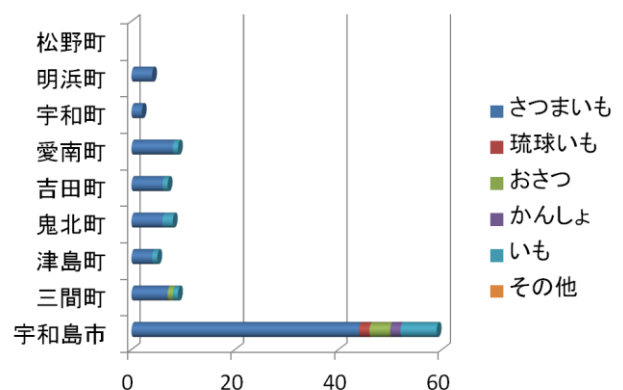


図2: アンケート調査結果(さつまいも)

### (2) 考察

動植物などの呼び名は、方言が使われているのではないかと考えていたが、予想に反して、あまり変わった方言などは使われていないことが分かった。日本言語地図の分布と今回のアンケート調査の結果はほぼ同じであることが確認できた。また、本で調べてみると、イモには多くの種類があり、もともとサトイモを栽培していたところに、サツマイモやジャガイモが伝わってきたため、サトイモは「たいも」「ただいも」と名前がつけられ、サツマイモには「あめりかいも」「からいも」「きゅうーしゅうーいも」「りゅうーきゅうーいも」など他の地域の名前がついている、動物の名には地域間の差異があまりみられないが、身近な小動物にはいろいろな名が付けられる(『愛媛ことば図鑑』より)と書かれており、今回の調査結果とほぼ合致していた。

## 5 まとめと今後の課題

アンケートの対象が高校生世代中心であったので、宇和島地域の古い言い方や方言を知らない人が多かった。対象を高齢者に変えれば、結果が違ったと思う。まだ南予方言と九州や東北(仙台)の方言との関連を見つけることが出来ていない。

私たちはこの学習を通して方言とは各地方の文化の象徴であると学んだ。しかし、現在ではそういった方言が使われなくなっている。地域ことば、文化を残していくためにも地域で受け継がれてきた生活様式を受け継いでいかなければならないと思う。

## 参考文献

- ・ 国立国語研究所 [http://www.ninjal.ac.jp/publication/catalogue/laj\\_map/](http://www.ninjal.ac.jp/publication/catalogue/laj_map/)
- ・ 『愛媛ことば図鑑』 土居中 昭 アトラス出版